

チェルノブイリ通信

2009年5月17日

No.76

発行 NPO法人 チェルノブイリ医療支援ネットワーク

連絡先 〒811-3102 福岡県古賀市駅東2-6-26 パステル館203号

TEL・FAX 092-944-3841

E-mail jimu@cher9.to

ホームページ <http://www.cher9.to/>

郵便振込口座 01770-1-65328



チェルノブイリ医療支援ネットワークは、チェルノブイリ原発事故で被災した人々のために、
現地から求められる医療支援を行います。

この活動を通して、日本とベラルーシの人々の心と心のつながりを深めます。



チェルノブイリを越えて、被災地では次の世代が育つ。リュドミラとアンナちゃん

特集：チェルノブイリ原発事故から23年

汚染地の甲状腺ガンは今
アルツール・グリゴロビッチ医師に聞く

コラム チェルノブイリと甲状腺ガン

チェルノブイリを支えるために
あなたにもできること

チャリティヘアサロン「スネガビーク」報告

事務局日誌より

今後のイベントスケジュール

会員さん紹介コーナー

作文集

『わたしたちの涙で雪だるまが溶けた』より

2009年度総会報告

汚染地の甲状腺ガンは今

ブレスト州立内分泌診療所長・赤十字移動検診チーム
アルツール・グリゴロビッチ医師に聞く

3月27日、アルツール医師が来福し、福岡市にて報告会を開催しました。本稿は、その講演内容を元に再編したものです。

ベラルーシ共和国ブレスト州立内分泌診療所長、国際赤十字移動検診チームスタッフ。2001年よりチェルノブイリ医療支援ネットワークと現地との合同検診に参加し、甲状腺ガン診断技術を学ぶ。妻で同僚のアリーナ医師、娘2人、息子1人とブレスト州に暮らす。42歳。

アルツール・
グリゴロビッチ 医師
Артур Григорович

■事故後に急増した甲状腺ガン

これはブレスト州を流れ、ドニエプル川に注ぐ、美しいプリピャチ川の写真です（左下）。

1986年4月26日のことについて、皆さんの方がきつとお詳しいと思いますので、ここでは繰り返しません。私からは、事故後に起きたことを報告します。

ベラルーシには、6つの州があります。ブレスト州はその一つで、西にポーランド、南にウクライナと国境を接しています。人口は150万人です。1976年のデータでは、ブレスト州での甲状腺ガンは7件しかなく、非常にまれな疾患でした。76年から

85年までの10年間で61件見つかりました。それが、事故後4年目の1990年には99人、95年には338人、00年には498人、05年には824人と増えていきました。昨年は466件見つかり、合計で2186件見つかりました。

■ベラルーシのガンの状況

甲状腺ガンを含めた、悪性腫瘍（ガン）全体の動向を見ると、男性に多いことが分かります。ここ10年間は、これまでに比べて1.5倍の発病率で、これは世界的な傾向でもあります。男女別のガンの内訳を見ると、女性の一位は乳ガン。続いて皮膚ガン、胃ガンと続きます。男性の一位は肺ガンで、皮膚ガン、前立腺ガンと続きます。

ガンの発見は、都市部と農村部でも異なります。ベラルーシでは直腸ガン、乳ガン、甲状腺ガンは、都市部において比較的多い傾向にあります。胃ガン、肺ガンは農村部に多い傾向があります。これは、都市と農村の環境などによって影響を受けています。

ベラルーシ共和国地図



甲状腺の疾患では、結節性疾患、甲状腺ガン、自己免疫性疾患（橋本病、慢性甲状腺炎）などが多くなっています。甲状腺疾患の性差を見ると、女性の方が男性より約4倍高くなっています。甲状腺の病気になる患者の4人に3人は、女性ということです。

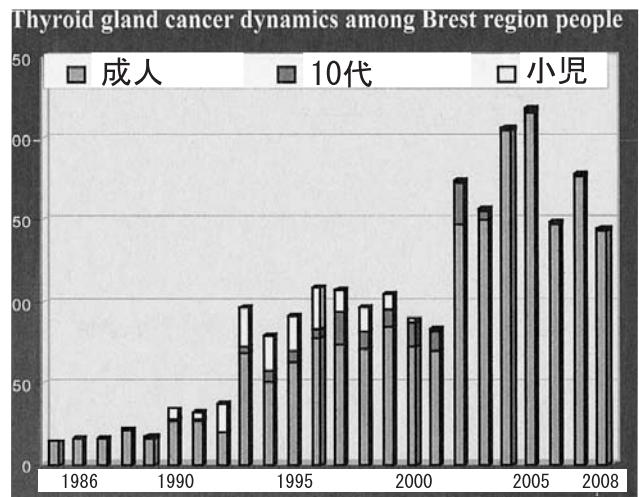
■日本の支援で発見率が向上

事故後、ベラルーシの小児甲状腺ガンは、ヨーロッパと比べ約20倍の高い発生率になりました。

ガンの症例数のグラフを見ると、2001年に急に増えていきます。この頃から、私たちブレスト州内分泌診療所移動検診チームと、チェルノブイリ医療支援ネットワークとの合同検診が始まりました。日本の専門家が入って私たちの技術が向上し、甲状腺ガンの発見率が大きく上がりました。

■成人期での増加傾向

小児甲状腺ガンは、以前はその多く



上／ブレスト州における、世代ごとの甲状腺がん症例数



下／エコーによる検診風景

■がんの種類と地域別分布

が手遅れという悲惨な状況にありました。2004年からは、小児や10代での甲状腺がんは減っていきましました。しかしこれは子どもが成長して、成人期のがんに移ったことを意味しています。小児や10代と入れ替わりに、成人期のがんは増加傾向にあります。

ベラルーシの甲状腺がんは、30歳までの若い年齢では、非常に転移が多い状況にあります。大量被曝のがんの進行は、非常に早いと言えます。私たちが見た症例で驚いたのは、わずか3ミリの微小がんでも、25%の患者が転移していたという点です。がん細胞が血液やリンパに乗って、離れた臓器やリンパ節に転移する、遠隔転移の問題もあります。

病的にどういうタイプのがんかを見ると、93・8%が乳頭がんです。乳頭がんは手術しても割と予後が良い、経過が良いケースです。2.2%が濾胞がん、1.1%が髄様がん、1.4%が未分化がんです。未分化がんは、がんの中では死に至る可能性が高い、危険ながんです。

0歳から15歳の甲状腺がんの州ごとの傾向を見ると、一番汚染がひどかったゴメリ州が一番高く、1995年がピークでした。未発達、未成熟の甲状腺が被曝の影響を受けやすく、子どもの時に被曝した世代に、多くがんが見つかっています。16〜18歳では、潜伏期を置いて、2001年、2002年頃に発病しています。

す。

子どもの頃に被曝した世代が成人して、今では高い年齢でがんが見つかっていきます。特にゴメリ州、ブレスト州、ミンスク市の3地域で増えています。ミンスク市は、地方の汚染地域から避難させられた人たちが多く集まり、また首都であるため良い医療機関が多く、発見数が高くなっています。

ロシアを含めて、事故によって一番影響を受けたのは、小児甲状腺がんの増加だと言われています。ただ、臨床の現場にいる私たちとしては、小さな子どもだけでなく、成人層、20代の間でも被曝の影響があったのではないかと印象を持っています。

■赤十字連盟移動検診チームとして

1997年10月、国際赤十字と日本赤十字の支援によって、ブレスト州内分泌診療所を拠点に、移動検診チームが設立されました。国際赤十字連盟から提供された検診車で、各汚染地を回り、検診をしています。

赤十字の移動検診チームスタッフは、チェルノブイリ医療支援ネットワークとの毎年の移動検診で研修を受けています。そこで学んだ技術によって、一年間をかけて州の全域を回り、検診を行っています。

移動検診の目的は

1. 地方に住む被災者を検診
2. がんのリスクのある患者に、エコー検査を実施
3. 二次スクリーニングとして、吸引穿刺（きゅういんせんし）を行う

の3点です。

■10年間で16万人を診察

移動検診では、検診を希望する村に行き、希望する人は誰でも検診を受けられます。

1998年から2008年の10年間で、移動検診チームが検診した住民の数は、16万4175名に及びます。そのほとんどが、ブレスト州の被災地に暮らす人々です。これはおそらく世界でも類を見ない数だと思います。

16万人のうち、悪性、良性の両方を含めて、6万870人が甲状腺疾患を持っていました。大まかに言えば、40%弱の人が、なんらかの甲状腺の病気を持っていたということです。

異常が見つかった患者のうち14・4%（2万3693人）が結節性疾患、8・4%（1万4423人）が甲状腺炎（橋本病）でした。また、499名の甲状腺がん患者を、初期段階で見つけることができました。内訳は、18名が小児、39名が10代でした。

私たちと日本との合同検診が2001年に始まり、それから吸引穿刺による検診を取り入れました。以来4200例の吸引穿刺を行いました。

■エコーと吸引穿刺でより正確に

移動検診車にはエコーの専門家と内科医が乗り、甲状腺検診を行います。ブレスト州全体で発見される甲状腺がんのうち、約4分の1から2分の1が、私たちの移動検診チームで発見されて

います。この二人の医師の力がある、効果的な検診をしているということを目指しています。

私たちの甲状腺ガン検診は

①問診と触診

②エコー検診とレポート作成

③エコー画面を見ながらの吸引穿刺

という流れです。悪性腫瘍の場合、石灰化という石のように硬くなった部分があるので、それをエコーで見つけるというやり方です。

7歳の男の子の患者では、最初はエコーで見つからず、異常がないように見えたのですが、吸引穿刺によってガンを発見しました。エコーでさえ見つけづらいガンもあり、また非常に小さいガンでも、若いために進行が早い状況です。



福岡来訪に合わせ、チャリティヘアサロンに協力下さっている美容室を訪問。写真はエトワールにて、美容師の皆さんと。
(中央がアルツール医師)

■日本からの支援で多くを学ぶ

きゅういんせんし

吸引穿刺では、エコーで見た画像に注射器を指し、甲状腺の細胞を取り出します。その細胞をプレパラートに出し、染色して、顕微鏡でガンかどうかを診断します。このやり方も、私たちが日本から学んだものです。

10年前、医療支援ネットワークからエコーが送られました。日立のエコーは性能がよく、現地でも非常に有名です。

当初、染色で使う機材や試薬はベラルーシでは手に入らず、染色方法も分かりませんでした。そんな中で、日本からの支援で染色機材が届き、日本との合同検診によって染色方法を学んだことは非常に効果的でした。現在では私たちも現場で機材をそろえて、自分たちで染色を行っています。

■日本の皆さまへ

これまで検診した中で、一番印象に残っている患者がいます。甲状腺手術をした後の、9歳の子供で、のどに日本では考えられないほど、大きな手術の跡が残っています。のどの部分を大きくU字型に切り、皮膚をめぐって甲状腺手術をする方法で、日本では数十年前の手術法です。日本の最新の手術では内視鏡を使い、傷跡は2、3センチと小さく、ほとんど手術痕は残りません。この子はその後回復して今も元気に活躍しています。

日本の皆さんからの支援に対し、被災地ベラルーシの患者に代わり、改めて感謝申し上げます。これからも、ベラルーシと日本の私たちの共同プロジェクトが続くことを願っています。

【コラム】チェルノブイリと甲状腺ガン



4月26日、23回目となるチェルノブイリ原発事故の日がやってきた。チェルノブイリ事故と甲状腺ガンの関係について考える。

●世界を震撼させた原発事故

1986年4月26日未明、旧ソ連ウクライナ共和国北部のチェルノブイリ原子力発電所で原子炉が暴走。大爆発を起こし、原子炉内の放射性物質が大量に空气中に放出された。

事故により、セシウム、ストロンチウムなどのほか、放射性ヨウ素（ヨウ素131）などが大気中に放出された。このような放射能が空気に触れ、温度が下がると粒子となって飛来し、植物や土壌に付着して、最後には人体にも取り込まれることになった。

原発から半径30キロ圏の強制移住は、5月3日になって始まった。

●最大の被曝国ベラルーシ

放射能は風によって、世界各地へ広がった。ベラルーシは最大の被曝国となり、国土の約3分の1が放射能汚染地となった。事故から数日後、放射能は遠く日本にも届き、野菜や母乳から放射能が検出された。

ロシア、ウクライナ、ベラルーシ

の3国の汚染地域の総面積は14万5000平方キロメートルとされる。約600万人の住民がこの汚染地域内での生活を余儀なくされている。

●放射性ヨウ素と甲状腺ガン

甲状腺は、自然界からヨウ素を取り込み、ホルモンを作っている。ベラルーシにも事故による放射性ヨウ素が広がり、それを吸収した甲状腺が影響を受けた。1990年代に、小児甲状腺ガンが急増したが、1995年をピークに減少。被災者の成長とともに、ガン患者の年齢も上がっている。

事故当時子どもだった世代は特に強い影響を受け、長い潜伏期を置いてガンとなることも多い。事故直後に受けた放射能の影響が、現在までも続いている。

●今後へ向けて

広島・長崎では、事故後数十年たつて、甲状腺ガンに続き乳ガン・肺癌が増えている。乳ガンは、甲状腺機能とも密接に関係し、現地で検診体制が遅れている。現在チェルノブイリ医療支援ネットワークでは、甲状腺専門医育成とともに、乳ガン検診の取り組みを進めている。



チェルノブイリを支えるために

あ	な
な	た
こ	に
と	も

チェルノブイリを支える方法はいろいろ。
あなたのアイデアもぜひお寄せ下さい。

一、参加する

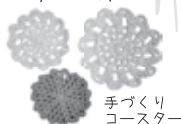
- 講演会、イベントなどに参加する
毎月1回、交流会やイベントを開催しています（8ページ参照）。ぜひ一度足をお運びください。
- メルマガ（無料）に登録する
毎月26日にメルマガジンを発行。タイムリーな情報をお届け。時には購読者限定のお得な情報も有。

一、行動する・活動する

- あなたの空いた時間を使ってボランティアしてみませんか？便利なボランティア登録制度もあり。
- 事務局ボランティア（随時）
パソコン入力やシール貼り、値札付けなど
- 通信発送ボランティア（年4回）
印刷や封入など
- イベントボランティア（イベント開催時）
活動紹介や物販、街頭募金など

一、特技・趣味を活かす

- もの作りが好き、イラストが得意、茶道が趣味、料理が好き、楽器が弾ける、カメラが趣味：あなたの特技や趣味を活用してみませんか？チャリティお茶会、コンサート、バザーなど、活かし方はアイデア次第。みなに編み物が趣味の某スタッフは、手づくりコースターなどをバザーで販売、売上げをカンパに充てています。



手づくりコースター

一、コーヒーや紅茶を飲む

- 売上の一部が寄付となる、有機無農薬栽培の「チェルノブイリ支援コーヒー・紅茶」を販売しています。安全でおいしいコーヒー・紅茶を飲んで、食卓からチェルノブイリを支援しませんか？



一、お買い物をする

- 大切な人への贈り物に、ゴメリ市の福祉工房「のぞみ21」のベラルーシ雑貨はいかがですか？事務所で購入すると定価の1割引 <http://www.chery.to/mingei/>
- 「イーココロ」のホームページ経由で通販会社のサイトを覗き、ネットショッピングをすると、お買上げ金額の一部が寄付されます。要会員登録（無料）。
<http://www.ekokoro.jp/>



一、知る

- 報告会・学習会を開く
スタッフがあなただけの町へ伺い、現地や活動の様子をお伝えします！内容や時間、費用などはご相談下さい。
- 本や映画にふれる
作文集やブックレット、映画「ナージャの村」や「アレクセイと泉」など。書籍11冊は貸出し可。



一、伝える

- チェルノブイリについて話す
家族や友達と話してみませんか？現地の正しい情報を伝え、一緒に考えることも大切な支援です。
- 写真展や報告会を企画する
文化祭やイベント用に、写真パネル、子どもの絵画などを貸出しています（送料のみ有料）。



一、寄付としてボランティア

- ゆうちょ銀行から寄付
郵便振替口座へ募金。赤い振込用紙で手数料無料。
01770-11165328
NPO法人チェルノブイリ医療支援ネットワーク
- コンビニから寄付
セブンイレブン、ローソン、ファミリーマート、a m m、ポプラなど、ほとんどのコンビニで手軽に利用できます。専用の振込用紙をお送りしますので、事務局までお知らせ下さい。
- イーバンクから寄付
インターネット上で24時間どこからでもご利用いただけます。（イーバンクに口座開設が必要）
支店名 ジャズ支店（支店番号 201）
普通預金
口座番号 7017104
口座名 NPO法人チェルノブイリ医療支援ネットワーク
- クレジットカードで寄付
イーココロのサイトで会員登録（無料）をすると、クレジットカードでの寄付ができます。
<http://www.ekokoro.jp/>
- 月々300円からの「マンスリーサポーター」
ゆうちょ銀行からの自動引き落とし。お好きな額で、お好きな時に開始・停止OK。詳しくは事務局またはまたホームページで。
<http://www.chery.to/dekiru2.html#month>

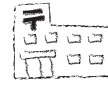
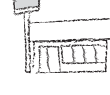
一、募金箱を置く

- 空き瓶に穴の開いた紙をかぶせれば、手づくり募金箱のできあがり。職場やお店先に設置していただませんか？コソコソ小銭が、大きな力に。



一、インターネットでクリック募金

- 上記「イーココロ」(<http://www.ekokoro.jp/>)や、クリック支援サイト「4e」(<http://4e.jp/>)の広告をクリックすると、スポンサー企業が寄付してくれます。



オシヤレに気軽にチェルノブイリ支援!!

チャリティヘアサロンに157名が来場

チャリティヘアサロン「スネガビーク2008」報告

文三島さと子（事務局）

5回目のスネガビーク

2008年11月3日（月・祝）、5度目となる「ヘアサロン・スネガビーク」が福岡市にて開催された。「スネガビーク」とはベラルーシ語で雪だるま・雪の精という意味）。

「美容師として何かできることはないか」、そんな一人のスタイリストの想いからスタートした一日限りのチャリティヘアサロン。1500円で髪を切って、その売上げをチェルノブイリの支援にあてよう!という試みは、今年も多くの方々の協力によって大盛況のうちに幕を下ろすことができた。

50名以上のプロと学生ボラ

今年は協力サロンとして新たに「あとリエん」が加わった。また個人ボランティアとして、以前美容師として働いていた千金美和子さん（「NGO福岡ネットワーク」ボランティアスタッフ）の協力も得ることができた。計6サロンと

大村美容専門学校の先生方による、総勢27名にプロの技術を提供していただいた。

また大村美容専門学校からは会場の提供とともに、美容師をめざす学生25名に運営ボランティアとして協力していただいた。元気なあいさつと活き活きとした笑顔は会場の雰囲気明るくし、それが来場者の笑顔を引き出していた。

さまざまな形の協力

「ヘアサロン・スネガビーク」は、それぞれが持っているものを出し合って形をつくっている。そこには本当にたくさんの人たちのサポートがある。技術を提供するプロの美容師の皆さんはもちろんのことだが、それだけではない。

例えば、毎年すてきなチラシやポスターをデザインしてくださるイラストレーターのいのうえしんぢさん。おいしい天然酵母のパンを作ってくださいましたさん、クッキーを作ってくださいましたあつこさん、馬場さん。キャッチコピーを考えたり、チラシを印刷したり

など開催までの準備を手伝ってくださった方々。前日の搬入や会場のセッティングを手伝ってくださった方々、受付や荷物預かり、物販など当日の運営ボランティアの皆さんなど、多くの方々の協力で成り立っている。

毎年の不安・・・

正直な話、開催日が近づくにつれ事務局では、「今年も人が集まりますかねえ」とマイナス思考な会話が続く。不安と焦りを感じながら広報活動やもろもろの準備を進めているのが実状だ。

老若男女を問わず、毎年多くの来場者がある。来場者の表情やアンケートなどを見ても、多くの方々に満足していただいているように思う。回を重ねるごとに知名度も上がり、リピーターも増えたように感じる。それでもなお、「人が集まらなかったらどうしよう!」とついつい考えてしまうのである。

予想以上の来場者に喜び



イベントを支えたスタッフ・ボランティアの皆さん

今年は結果的に過去最高となる157名の来場者があった。正直、とても嬉しかった。髪を切ることでオシヤレに、気軽に、チェルノブイリ支援ができるということを多くの方に伝えることができた。主催側からすれば、「今日のイベントに参加しただけさつてありがとうございます」と感謝する立場であるのに、来場者の方からも「ありがとう」という言葉がたくさんいただいた。

しかし予約の人数や当日の飛入り参加の受付数、全体の流れなど反省・改善すべき点も色々見つかった。より良いイベントにできるように今後も工夫を重ねていきたいと思う。

今年の開催は、10月12日（月・祝）を予定している。前回の反省点をふまえ、来場者もスタッフも楽しんで参加できるイベントにできるよう、縁の下での力持ちとして頑張りたい。